

平成26年度卒業論文

結婚幸福度を規定する要因

所属ゼミ 村澤ゼミ  
学籍番号 1110401032  
氏名 金子稔季

大阪府立大学経済学部

## 要約

本稿は、日本版General Social Surveys <JGSS-2000>と<JGSS-2001> 個票データを用いて結婚幸福度を規定する要因を家事、収入、子供の年齢、セックスなど変数に加え順序プロビットモデルで分析する。その結果、男女平等に家事分担し働くような夫婦よりも、女性が家事をし、男性は仕事で収入を得る夫婦が幸福度が高いことがわかった。これを裏付ける結果は以下のものである。男性は自分の年収が高いと結婚幸福度が高く、配偶者の年収は有意ではなかった。逆に女性は自分の年収が有意ではなく、配偶者の年収が高いと結婚幸福度が高かった。さらに、女性の結婚幸福度に対して、夫の家事の頻度はあまり影響力はなかった。

男女別に比較すると、男性ではセックスを週に1回以上、家族との夕食を多くとり、配偶者の買い物は週数回以上、配偶者の料理の頻度は週に1回以下、第三子が6~12歳で自分の年収が高いと結婚幸福度が高い。女性ではセックスの頻度が多く、家族との夕食を毎日とり、配偶者の買物の頻度が高く、配偶者が料理を毎日せず、第三子が6~12歳で、配偶者の年収が高く、高齢であると結婚幸福度が高い。

## 目次

第1章	はじめに .....	1
第2章	先行研究 .....	2
第3章	データ .....	3
	1.日本版General Social Surveys .....	3
	2.変数の作成と要約統計量 .....	5
第4章	データ分析 .....	8
第5章	考察 .....	14
	謝辞 .....	15
	参考文献 .....	16

## 第1章 はじめに

本稿は、日本版General Social Surveys <JGSS-2000>と<JGSS-2001> 個票データを用いて結婚幸福度を規定する要因を分析する。データは先行研究で使われたSSMではなくJGSSを使用した。分析方法について先行研究ではOLSが用いられたが、本稿では被説明変数の結婚生活の幸福度の性質を考慮し、より適切な順序プロビットモデルを用いた。その結果、男性は自分の年収が高いと結婚幸福度が高く、配偶者の年収は有意ではなかった。逆に女性は自分の年収が有意ではなく、配偶者の年収が高いと結婚幸福度が高かった。さらに、女性の結婚幸福度に対して、夫の家事の頻度はあまり影響力はなかった。つまり、男女平等に家事分担し働くような夫婦よりも、女性が家事をし、男性は仕事で収入を得る夫婦が幸福度が高いことがわかった。

本稿の構成は以下のとおりである。第2章で先行研究を紹介し、第3章でデータを確認し、第4章で分析結果を示し、第5章で考察を行う。

## 第2章 先行研究

木下栄二(2008)SSMを用いて、結婚幸福度を被説明変数とし、配偶者の健康、家事の参加度、家庭への参画度、世帯年収、妻の勤務形態を説明変数とするOLSを行った。そのさい、末子の年齢と性別でモデル分けをしていた。しかし、結婚幸福度に上記の変数を回帰したモデルでは決定係数が低く、モデルの当てはまりの悪さが問題でありモデルを見直す必要性を示唆していた。

本稿はこの分析を参考にモデル作った。問題を改善するためダミー変数を用いたり、分析手法を順序プロビットモデルに変えたり、違うデータを使ったりした。

末盛、石原(1998)で、は93年の『全国家庭動向調査』のデータを用いて、夫婦関係満足度を被説明変数とするOLSを行った。説明変数には妻の年齢教育年数、労働時間、末子年齢、妻の労働形態が用いられた。これによれば日本では家事のほとんどを女性が負担しているが、女性の多くはその現状に不満を抱いていない。それでも、夫の家事遂行は妻の結婚幸福度に対して有意である。また、その影響は妻の就業状況やパーソナリティーに依存する。

山口(2007)の中で、夫婦関係満足度は家庭の日常生活のあり方特に夫婦の対話が重要であることを述べている。

### 第3章 データ

#### 1.日本版General Social Surveys

調査対象の母集団は、満20～89歳の男女であり、層化2段抽出法により対象者を抽出している。層化は、全国を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の6ブロックに分け、各ブロック内で市郡規模に応じて大都市、その他の市、郡部の3つに分ける方法をとっている。国勢調査の調査区を調査地点の抽出単位とし、各層から調査地点を抽出している。調査地点数は、ひとつの調査地点の対象者数が最大でおよそ15になるように設定している。各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿からの系統抽出により行っている。データの回収方法は、面接法と留置法を組み合わせたものである。

JGSSの調査項目は、原則的に毎回調査する中心的な設問と、1回限りあるいは数回に1度だけ調査する時事的な設問に分けられる。つまり、日本を対象にデータ分析するための精巧な標本を提供するための調査である。

本稿で扱う変数は<JGSS-2000-2003累積データ>のデータから幾つかの変数を用いたものである。上述の通り数回しか調査されてない項目が存在する。その項目を変数として加えたため、実質的には<JGSS-2000>と<JGSS-2001>の累積データを用いたことになる。さらに、回答なしなどを欠損値として除外したあとに既婚者だけを抽出したものであり、本稿の分析対象となる標本は2022個(男性1096)(女性926)になった。次ページ表3-1は今回扱うデータをまとめたものである。

表3-1 使用する変数の一覧

変数の説明	
結婚生活幸福	あなたの結婚生活は、幸せですか。に対して1幸せ5不幸せの5段階自己評価。
配偶者料理の頻度	1.ほぼ毎日 2.週に数回 3.週に1回 4.月に1回 5.年に数回6.年に1回 7.全くしない
配偶者買い物の頻度	同上
配偶者掃除の頻度	同上
家族揃った夕食の頻度	同上
本人セックス頻度	1.全くなし 2.年に1～2回 3.月1回程度 4.月に2～3回程度 5.週に1回程度 6.週に2～3回 7.週4回以上
配偶者	1.現在配偶者がいる 2.既婚(離死別) 3.未婚 *
性別	1 男性、2 女性。
本人年収	1.なし 2.～70万 3.70～100万 4.100～130万 5.130～150万 6.150～250万 7.250～350万 8.350～450 9.450～550万 10.550～650万 11.650～750万 12.750～850万 13.850～1000万 14.1000～1200万 15.1200～1400万 17.1600～1850万 18.1850～2300万 19.2300万～20.該当なし**
配偶者年収	同上
第1～7子の年齢	実数値

\*本稿では1のみ扱う。

\*\*年収の該当なしは本稿では収入無しと、見なしている。

## 2.変数の作成と要約統計量

データ分析にあたり前ページの変数を元に次のようなダミー変数を作成した。本人年収と配偶者の年収は250~350万円未満=1のような階級ごとのダミー変数を作った。これは130万~150万や1850万~2300万など所与の数値が異なる範囲に割り振られているためこの操作を行った。表3-2はその相対度数の表である

表3-2 所得の相対度数

	本人年収		配偶者年収	
	男	女	男	女
なし	0.1%	2.3%	2.2%	0.2%
70万円未満	1.8%	7.7%	6.8%	1.2%
70~100万円未満	0.8%	10.2%	9.3%	1.7%
100~130万円未満	1.2%	5.2%	4.5%	0.7%
130~150万円未満	0.9%	2.7%	2.5%	0.9%
150~250万円未満	4.7%	5.6%	4.7%	4.3%
250~350万円未満	8.8%	5.2%	4.8%	7.5%
350~450万円未満	9.8%	2.2%	2.7%	8.6%
450~550万円未満	10.5%	1.5%	1.6%	7.8%
550~650万円未満	7.4%	1.0%	0.9%	8.6%
650~750万円未満	6.2%	0.8%	0.7%	6.2%
750~850万円未満	5.8%	0.9%	0.2%	4.9%
850~1000万円未満	6.0%	0.3%	0.1%	5.2%
1000~1200万円未満	4.0%	0.2%	0.3%	4.3%
1200~1400万円未満	0.8%	0.1%	0.0%	1.1%
1400~1600万円未満	1.1%	0.1%	0.1%	0.4%
1600~1850万円未満	0.6%	0.0%	0.0%	0.2%
1850~2300万円未満	0.3%	0.1%	0.1%	0.3%
2300万円以上	0.6%	0.0%	0.0%	0.1%
該当なし	28.7%	54.1%	58.6%	35.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



配偶者料理の頻度、配偶者買い物の頻度、配偶者掃除の頻度、家族揃った夕食の頻度、からそれぞれ料理1-7、買い物1-7、掃除1-7、家族揃った夕食1-7というダミー変数を作った。また数字は1が全くしない、7がほぼ毎日を表すように逆転させている。例えば買い物5は配偶者の買い物の頻度が週に1回=1のダミー変数である。本人セックスの頻度から作ったダミー変数のセックス1-7はすでに順番通りであったため、順番はそのまま割り当てた。下の表3-3はその相対度数の一覧である。

表3-3 頻度を表す変数の相対度数

階級	配偶者の料理		配偶者の掃除		家族揃った夕食		配偶者の買い物		sex	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	3.4%	57.3%	2.7%	39.1%	1.6%	1.5%	2.8%	28.6%	27.0%	39.2%
2	0.2%	4.9%	0.4%	6.9%	0.7%	0.2%	0.2%	2.3%	14.4%	11.5%
3	0.3%	11.7%	0.9%	17.2%	3.5%	3.1%	0.6%	12.2%	23.6%	20.8%
4	0.6%	5.4%	1.7%	9.5%	3.6%	1.7%	1.1%	14.9%	21.2%	16.7%
5	1.5%	6.6%	11.7%	11.9%	9.0%	9.5%	10.2%	21.7%	10.0%	9.4%
6	8.1%	6.1%	28.3%	8.6%	23.5%	21.6%	36.6%	14.6%	3.2%	2.2%
7	86.0%	8.1%	54.3%	6.8%	58.0%	62.3%	48.5%	5.7%	0.6%	0.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢は実数値をそのまま用いた。下の表3-4は年代別の相対度数の一覧である。

表3-4 年齢の相対度数

階級	相対度数
20代	4.5%
30代	13.6%
40代	17.5%
50代	23.5%
60代	23.1%
70代	15.0%
80代	2.7%
計	100.0%

結婚幸福は本稿では被説明変数となる。これは「あなたの結婚生活は、幸福ですか。」という問いに1～5に丸を付ける留置調査で得たデータであり、1不幸5幸福の順になるように入れ替えた。下の表3-5が相対度数である。

表3-5 結婚幸福の相対度数

階級	男	女
1	0.5%	1.8%
2	1.7%	5.1%
3	25.8%	27.4%
4	33.1%	27.2%
5	38.9%	38.4%
計	100.0%	100.0%

子供の年齢は0～6歳、7～12歳、13～18歳、19歳以上、第1-7まで分けてダミー変数を作った。下の表3-6はその相対度数の一覧である。表3-6の通り第4子以降は5%以下で標本数100もない位であった。

表3-6 子供の年齢の相対度数

	第一子	第二子	第三子	第四子	第五子	第六子	第七子
0～6	8.7%	6.8%	2.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
7～12	7.9%	7.5%	3.5%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
13～18	8.9%	7.8%	3.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
19～	65.8%	53.7%	18.8%	3.7%	1.0%	0.3%	0.0%
なし	8.8%	24.2%	71.3%	95.3%	99.0%	99.7%	100.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

#### 第4章 データ分析

先行研究をふまえて結婚幸福度を被説明変数とした3つのモデルを用意した。いずれも同一の変数、同一の分析方法（順序プロビットモデル）によるものである。これらのモデルの違いは標本である。男女合わたものと、男性のみのもものと、女性のみのものである。男女間の結婚意識を比較検討するために、複数のモデルを用意した。

木下(2008)ではOLSによる分析が行われたが、結婚幸福度が非連続的であること、順序に意味があることから本稿では順序プロビットモデルを用いた。また、先行研究では末子の年齢に着目したが、本稿では全ての子供の年齢にダミー変数を用いて分析を行った。表4-1はこの分析の結果の一覧である。

表4-1 結婚幸福度を被説明変数としたプロビット分析の結果(係数)

	男女	男	女
セックス 年1-2回	0.16 *	0.05	0.28 **
セックス 月1回	0.14 *	-0.06	0.32 ***
セックス 月2-3回	0.37 ***	0.19	0.47 ***
セックス 週1回	0.54 ***	0.33 **	0.79 ***
セックス 週2-3	0.65 ***	0.42 *	0.94 ***
セックス 週4回~	1.10 **	0.76	7.57
家族夕食 年1回	0.85 **	0.96 *	0.50
家族夕食 年数回	0.37	0.06	0.58
家族夕食 月1回	0.58 **	0.59 *	0.20
家族夕食 週1回	0.51 **	0.49	0.34
家族夕食 週数回	0.57 ***	0.56 *	0.46
家族夕食 毎日	0.81 ***	0.82 ***	0.67 **
掃除 年1回	-0.04	-0.36	-0.04
掃除 年数回	-0.07	-0.49	-0.09
掃除 月1回	-0.08	-0.28	-0.12
掃除 週1回	-0.04	-0.30	-0.01
掃除 週数回	0.06	-0.03	-0.08
掃除 毎日	0.29 **	0.17	0.20
買い物 年1回	0.04	1.90	0.05 ***
買い物 年数回	0.38 ***	0.17	0.43 ***
買い物 月1回	0.44 ***	0.25	0.54 ***
買い物 週1回	0.49 ***	0.52	0.57 ***
買い物 週数回	0.52 ***	0.76 **	0.35 **
買い物 毎日	0.57 ***	0.73 **	0.93 ***
料理年1回	0.13	-0.76	0.13
料理 年数回	0.11	0.74	0.12
料理 月1回	-0.02	-0.42	0.08
料理 週1回	0.08	0.67	-0.05
料理 週数回	-0.39 ***	-0.59 *	-0.20
料理 毎日	-0.38 ***	-0.59 *	-0.56 ***

注\*\*\*1%有意水準 \*\*有意水準5% \*有意水準10%

・上の表のダミー変数は1を基準として抜いている。

・1から低頻度順に7なるようダミー変数を作成した。

表4-1(続き) 結婚幸福度を被説明変数としたプロビット分析の結果(係数)

	男女	男	女
年齢	0.01 ***	0.00	0.02 ***
第一子0-6	-0.04	0.05	-0.04
第一子7-12	-0.21	-0.07	-0.19
第一子13-18	-0.43 ***	-0.36 *	-0.42 *
第一子19-	-0.18	-0.06	-0.26
第二子0-6	0.26 *	0.23	0.23
第二子7-12	0.06	0.14	-0.08
第二子13-18	-0.18	-0.26	-0.07
第二子19-	-0.06	0.07	-0.08
第三子0-6	0.15	-0.07	0.37
第三子7-12	0.44 ***	0.44 *	0.50 *
第三子13-18	-0.08	-0.06	-0.20
第三子19-	0.05	-0.08	0.19
第四子0-6	-0.16	-0.54	7.21
第四子7-12	0.49	0.62	0.26
第四子13-18	-0.86 *	-0.95	-1.10 *
第四子19-	0.16	0.13	0.09
第五子13-18	7.70		10.49
第五子19-	-0.35	0.05	-0.72
第六子19-	0.56	-0.20	0.88
第七子19-	5.88		7.34

表4-1（続き）結婚幸福度を被説明変数とした順序プロビット分析の結果（係数）

本人年収	男女	男	女
なし	-0.19	8.64	-0.16
70万円未満	0.08	0.08	0.02
70-100万円	-0.16	0.03	-0.20
100-130万円	0.21	0.22	0.16
130-150万円	0.19	0.15	0.14
150-250万円	-0.02	0.16	-0.24
250-350万円	-0.02	-0.18	0.09
350-450万円	0.03	-0.01	-0.17
450-550万円	0.27 **	0.22	0.35
550-650万円	0.34 **	0.29 *	0.55
650-750万円	0.33 **	0.27	0.53
750-850万円	0.23	0.24	-0.47
850-1000万	0.15	0.08	-1.05
1000-1200万	0.60 ***	0.58 ***	-0.10
1200-1400万	0.99 **	1.23 ***	-1.03
1400-1600万円	0.29	0.10	8.23
1600-1850万	0.46	0.41	
1850-2300万	0.17	-0.56	9.09
2300万~	1.07 **	1.01 *	

表4-4 結婚幸福度を被説明変数としたプロビット分析の結果（係数）

配偶者年収	男女	男	女
年収なし	-0.01	0.12	-1.51 *
70万円未満	0.07	-0.04	0.30
70~100万円	-0.02	0.00	-0.14
100~130万円	0.03	-0.05	0.73
130~150万円	0.18	-0.13	1.25 ***
150~250万円	0.17	0.18	0.27
250~350万円	0.15	0.11	0.29
350~450万円	0.03	0.22	0.13
450~550万円	0.35 **	0.42	0.45 **
550~650万円	0.05	0.44	0.19
650~750万円	0.08	0.58	0.14
750~850万円	0.29	6.80	0.33
850~1000万	0.46 ***	0.02	0.61 ***
1000~1200万	0.52 ***	6.35	0.52 **
1200~1400万	0.86 **		1.37 ***
1400~1600万円	1.18 *	8.68	0.77
1600~1850万	-0.04		-0.00
1850~2300万	1.05	-0.96	7.13
2300万~	6.91		8.78

注\*\*\*1%有意水準 \*\*有意水準5% \*有意水準10%

・該当なしは基準として抜いている。

・空白は観測対象が0のため。

結婚幸福度に対する説明変数の影響をを男女別に箇条書する。

#### 男性

- セックスの頻度は週に数回で正に有意である。
- 家族揃った夕食の頻度は基本的に多いほど結婚幸福度を高めるが、年に1回でも有意に正である。
- 妻の掃除の頻度は有意ではない。
- 妻の買い物の頻度は週に数回以上で有意に正である。
- 妻の料理の頻度は週に数回以上だと有意に負である。
- 年齢は有意ではない。
- 第一子が13歳～18歳で有意に負であり、第三子が7歳～12歳で有意に正である。
- 本人の年収が高いと結婚幸福度が高まる傾向にあるが、有意に正の影響がなお範囲がある。
- 配偶者の年収は有意ではない。

#### 女性

- 結婚幸福度はほぼセックスの頻度正比例する。男性よりセックスをしないの影響が大きい。
- 家族揃った夕食は毎日でのみ有意に正である。
- 夫の掃除頻度は有意ではない。
- 夫の買い物頻度は多いほど結婚幸福度を高める。男性より全くしないの影響が大きい。
- 夫が料理を毎日すると有意に負である。
- 年齢は有意に正である。
- 第一子が13歳～18歳で有意に負であり、第三子が7歳～12歳で有意に正である。第4子13歳～18歳で有意に負である。

まとめると、掃除や料理、家族揃った夕食は結婚幸福度に影響を与え、男女で全く違う結果が出た。年収については男性は自分の年収、女性は夫の年収のみ有意で、基本的に多いほど結婚幸福度を高めるが、ある範囲でそうならない。年齢は女性のみ正である。13歳～18歳の中高生の子供は結婚幸福度を下げる傾向がある。



## 第5章 考察

この研究は良い配偶者とは？という興味から始めた。家事だけでなく、セックスも非常に重要であることがわかった。しかし、予想とは違う結果であった。配偶者の家事の頻度は結婚幸福度に対して、必ずしも正の影響与えるわけではなかったのだ。夫が料理を毎日すると結婚幸福度は低い傾向にあり、掃除の頻度は有意な影響がなかった。また、今回の分析を見る限り、男女ともに男性が働いて稼ぐことを望んでおり、男性に繁く家事をすること望んでいないのだ。つまり、家事分業における男女平等を男女双方が望んでいない。すなわち、女が家事を男が外で仕事をするという古典的な分業を望んでいることを示唆していた。

## 謝辞

日本版 General Social Surveys(JGSS)は、大阪商業大学比較地域研究所が、文部科学省から学術フロンティア推進拠点としての指定を受けて(1999-2003年度)、東京大学社会科学研究所と共同で実施している研究プロジェクトである(研究代表:谷岡一郎・仁田道夫、代表幹事:佐藤博樹・岩井紀子、事務局長:大澤美苗)。東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブがデータの作成と配布を行っている。

参考文献

末盛慶、石原邦雄（1998）「夫の家事遂行と妻の夫婦関係満足度」『人口問題研究』Vol.54,No.3,pp39～55

山口一男（2007）「夫婦関係満足度とワークライフバランス -少子化対策の欠かせない視点-」経済産業研究所 RIETI ディスカッション 06-J054

木下栄二（2008）「結婚幸福度を規定するもの」『現代家族の構造と変容』

渡辺秀樹、稲葉照英、嶋崎尚子、[編]pp277~291